

新居に引っ越して以来、私は家から大学まで、バス、電車、徒歩と毎日一時間かけて通学している。犬も歩けば棒に当たるといふ諺通り、ただ歩くだけでも多くの発見がある。

例えば商品に書かれている文字だ。街を歩けば日本語を含む様々な文字が其処ら中に氾濫していて面白い。マレーシアは多言語国家であり、殆ど全ての国民が日常的に二つ、或いは複数の言語を使っている。主要言語はマレー語、次に公用語である英語、そして各民族の言語、具体的には中国語、タミル語（こちらではヒンディー語よりもタミル語の方が普遍的。）そして各ネイティブ（サバ島に多い）の人々の言語と続き、非常に多様な言語が使われている事に気づく。

ハウスメイトと英語で会話していてもしばしば彼らの母国語が自然に混じってくるし、研究室でも一人がマレー語、相手が英語で会話をしていたりと多言語国家であることを感じる機会が非常に多い。ちなみに大学講義は基本的に英語で進められているが、英語で伝わらないときは他言語（主にマレー語）も割と頻繁に使われている。試験の時は英語で書くのが基準のようだ。生徒の英語は日常会話に困らない位ではあるが、論文の記述には不十分であり、こちらの大学でも英語の講義は必修となっている。英語を使う機会が多いとは言え、やはり日常だけでは不十分なようだ。とはいえ日常的に多言語に触れているからか、こちらの人の言語に対する抵抗もしくは忌避感のような物が薄いように感じる。そのせいか英語の講義では日本より生徒が意欲的に取り組んでいると感じる。

また言語だけではなく、宗教も面白い。マレーシアではキリスト教、イスラム教、仏教、その他儒教やヒンドゥー教が入り混じっており、街を歩くとモスク（イスラム教の礼拝堂）や教会、寺院を見かける事ができる。来る前は宗教の諍い等から喧嘩も多いのかと考えていたが、予想とは違い人々は基本的にお互いの宗教を尊重しているようで、それが原因で言い争う場面を見かけたことはない。我が家でもハウスメイトたちが日常の話題としてお互いの宗教について議論しており、一部の熱狂的な信者を除けば国全体でもお互いを認め合っていると見える。

大学も彼らの宗教にある程度の便宜を図っているようだ。例えばイスラム教の場合祈りの時間（彼らは毎日決まった時刻に祈りを捧げる習慣があり、定刻になるとモスクから放送が始まる）になるとムスリムの為に授業は中断され、彼らが祈っている間他の宗教を持つ生徒は静かに彼らの祈りを待っているし、キリスト教の場合大学内でサークルのようなものを作り、大学施設を使った定期的な集会を行うことを許可している。他にもムスリムが巡礼に行く祝日の前日は講義が早上がりになったことがあった。（当然クリスマスも休みだ。期末試験など間違っても無い。）こういった光景は日本では見かけないので非常に興味深い。

またマレーシアは各宗教の祝日を国の休日としているため休日が非常に多く（実際こちらに来てから2週間に1日は何らかの祝日だった。調べてみると今年の祝日は43日もあると分かった。一年の1/9が祝日とは驚いた。またこれら祝日の経緯を通じてお互いの宗教を知り合うきっかけにもなっているようだ。）、それに応じる形で各教育機関（大学含む）の長期休暇は短くなっている。具体的には大体1~2週間程で、日本のように四季が無いことも関係していそうだ。

このようにマレーシアでは言語、宗教が違ってもお互いにそれを認め合って過ごしており、それがとても自然なものとして受け入れられている。私はこれらの光景を見ていて新鮮に感じる一方で、決して遠く離れた国だけの話ではないのだろうと感じている。

日本の文化はインターネットを通じて世界に浸透し、今やそれらをきっかけに様々な国の人が日本に関心を持ち日本を訪れている。ここマレーシアでもそれは同様で、共に学んでいる生徒達も近い将来大学のプログラムで日本を訪れその規模はアジア全体で拡大していこう（実際私が支援してもらっているAIMSプログラムはASEANの国際化を促す取り組みだ）。この国際化の動きは将来、日本をマレーシアのように、より様々な言語、肌の色、宗教を持つ人々が暮らす国に変えていこうと考えている。そしてその時、我々が日本国民としてどう在るべきかを、別々の土地で生まれ、異なる言語、宗教、身体的特徴を持つ人々が集まり自らをマレーシア人だと呼ぶ彼らの生き方から学ぶ事ができるのでは無いだろうか。小倉



写真はわさびと書かれたmade in malaysiaのティッシュ。どの辺りがわさびか分からないが、日本における英語と似たようなイメージなのだろう。